

第3編

道路のり面分科会

【要旨】

本編では、道路のり面分科会の研究内容について述べる。2010年4月に発足した、“公共土木施設の維持管理に関する研究委員会”では、「道路分科会のり面WG」として、主に施設管理者側のニーズに沿った形での成果、すなわち、道路の斜面やのり面に関する適切な点検方法の手引き、補修・補強工法選定資料などを提供した。2014年9月に発足した“維持管理研究委員会”では、「道路のり面分科会」として、施設管理者側のニーズに答える研究をより深化させることに加えて、近年の社会インフラの維持管理の課題とされる「予算不足」、「人材不足」、「技術力不足」に取り組み、維持管理技術の更なる向上に寄与できる成果を目指し、防災工事や維持管理などの記録を有効に活用するため、維持管理マップWG、補修・復旧WGの2つのWGで引き続き維持管理に関する調査研究活動を行った。

各WGの研究概要は以下のとおりである。

維持管理マップWGでは、維持管理の記録を継続的に保存することにより、道路管理者が日常及び異常時(豪雨時・地震時等)に速やかに安全点検し、今後の維持管理に有効活用できるよう、道路の斜面・のり面の効率的・効果的な維持管理に供するのり面ハザードマップ(維持管理マップ)を試作することを目的に研究活動を行った。成果として作成した“道路のり面維持管理マップ作成要領(案)”について以下に述べる。

補修・復旧WGでは、建設コンサルタント各社へのアンケートによる事例収集を継続的に行い、盛土のり面や切土のり面の補修・補強事例、災害復旧事例などを収集整理して、若手技術者の教科書的な手引き(案)を作成することを目的に研究活動を行った。成果として作成した“事例に基づく道路のり面補修・復旧の手引き(案)”について以下に述べる。

なお、これらのWGの研究活動内容は、維持管理や補修・復旧に関する記録を保存し、有効活用するための一手法として提案したものであるため、記録の収集や整理を継続的に行い、内容をスパイラルアップしていくことが今後の道路のり面の維持管理にとって重要である。

(執筆：丸木義文)